



ICTを活用した小学校体育（運動領域）の評価と日々の授業改善
 ～ICTを活用した学習の振り返り～ 宮田 幸治 1
 小・中学校でもできる！
 新型コロナウイルス感染症に対応した水泳学習の実践 有明 志郎 5
 ICT実践レシピ Vol.2 7
 with Sports 新井 大基 日本ボッチャ協会職員 8

体育・保健体育に関する情報や、授業のヒントなどをお届けしてきた『小学校体育ジャーナル』、『中学校保健体育ジャーナル』は、合本となり『体育・保健体育ジャーナル』として生まれ変わりました。小学校、中学校の枠組みを越えて、系統性を踏まえた指導が重視されている今日に対応し、これまでよりもさらに充実した内容で、指導や子どもたちの学びに役立つ情報をお届けしてまいります。

ICTを活用した小学校体育（運動領域）の評価と日々の授業改善

～ICTを活用した学習の振り返り～

（みらい授業フォーラムセミナー2022年3月12日実施より）

長崎県小学校教育研究会体育科研究部会 ● 宮田 幸治

※本稿は、2022年3月12日に開催されたみらい授業フォーラムセミナー「ICTを活用した小学校体育（運動領域）の評価と日々の授業改善」の内容の一部を抜粋、再構成、加筆したものです。

GIGAスクール構想の推進により、1人1台の端末の整備が行われました。今、学校では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、オンライン授業が行われているところも多いと思います。他にも、多くの実践が行われていることでしょう。

本稿では、学習の振り返りにICTを活用した事例をご紹介します。これは、長崎県小学校教育研究会体育科研究部会と県・市教育委員会の体育科研究指定を受けた研究校が連携して取り組んだ実践をもとにしています。

1 見える学力と見えにくい学力

図1は、文部科学省中央教育審議会副会長等を歴任された、梶田観一さんによる「確かな学力」の氷山モデルです（2013年発表のもの）。学力の見えやすさを氷山に例えて示しています。水面上に出ている技能や

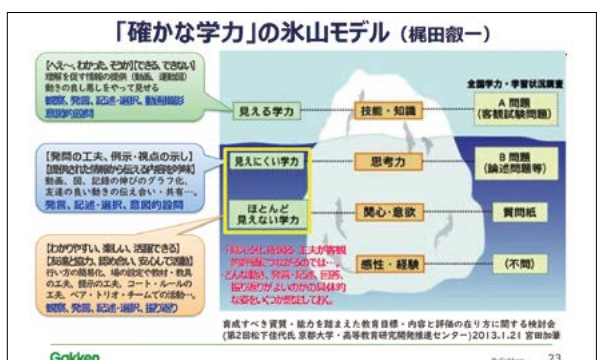


図1 「確かな学力」の氷山モデル（セミナー投影資料より）



知識は、児童の「へえー、わかった。そうか」といったつぶやきや観察等で評価することができます。しかし、水面下に隠れている思考力、判断力や、関心・意欲（主体的に学習に取り組む態度）は、見えにくいものです。これらの見える化を図ることが、客観的な評価につながっていくと考えられます。そしてそのためには、児童のどんな姿を評価するのか、具体的な姿をどれだけイメージできるかが大切になります。

「指導したことしか評価ができない」というのが評価の原則ですから、しっかりと教師が例示を行って指導をし、児童に考えさせ、活動に結び付けていくことが前提となります。ところが、何もない状況で児童に、「さあ、考えましょう」「グループで話し合ってください」という授業が少なくありません。「自ら課題を発見し、学習したことを生かして課題の解決の方法を選んでいく」。これは、高校生でも難しいくらいレベルの高いものです。何もないところから考え出すというのは、とても難しいものなのです。

小学校の段階では、まずは「どんな課題があるのかな」「どんな解決の方法があるのかな」「選ぶときはどんなことに気を付ければよいのかな」などと声をかけて取り組みを促し、課題解決の方法を学び、上の校種につなげていくことが必要だと思えます。

2 観点ごとの評価方法と見取るものの例

図2は、観点ごとの主とした評価方法と見取るものの一例です。このうちの、思考(力)、判断(力)、表現(力)、主体的に学習に取り組む態度については、次の

| 観点ごとの主とした評価方法と見取るもの | | |
|---------------------|----------------------------------|----------------------------------------------|
| 観点 | 方法 | 見取るもの |
| 知識 | 発言、学習カード (主として学習カード) | 教師が説明した運動の行い方をわかっているか |
| 技能 | 主として観察 | 運動(動き)ができるか (運動のポイントがわかっているか) |
| 思考・判断 | 発言、学習カード (主として学習カード) | 教師の例示から課題、解決の方法や練習方法、ルールや作戦を選んでいるか |
| 表現 | 発言、学習カード (主として学習カード、アドバイスカード) | 教師が示した例示や視点を基に、見つけた友達の良い動きや課題、解決の方法などを伝えているか |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 発言、観察、振り返り (主として観察) | 愛好的な態度、協力・公正、役割分担 ⇒行おうとしているか 安全⇒行っているか |

図2 観点ごとの主とした評価方法と見取るもの
(セミナー投影資料より)

ように児童の状況を見取ります。

●思考力、判断力、表現力の指導と評価

思考力、判断力、表現力の指導に際しては、イメージした姿を実現するために、何を考えさせるのかというところから教師が発問を工夫し、考える視点や具体的な例示を行って学習を進めます。そして、振り返り時には、その活動をもとにした設問や選択肢から回答する小テスト形式などの手だてにより、児童の状況を確認するようにします。

●主体的に学習に取り組む態度の指導と評価

主体的に学習に取り組む態度については、運動への愛好的な態度、協力、公正、役割分担、安全面への配慮などの指導内容に対して、例を示して考えさせたり、友達との教え合いの姿や内容について具体的に示したり、児童がやってみたいと思う、簡単でわかりやすく、でも少しだけ「難しそうだ、挑戦してみたい」という場や行い方を設定したりして、求める姿を表出しやすくし、観察や学習カードで見取るようにします。

3 学習カードを使用した評価の例

学習カードを使った評価について、高学年のボール運動(ネット型ゲーム)の単元で、「教師の例示からゲームを楽しく行うためのルールを選ぶ」授業の事例を紹介します。

本時においては、ネット型ゲームのルールについて、さまざまな選択肢(ボールは軟らかいものか硬いものか、内側のラインを使うか外側のラインを使うかなど)を教師が例示し、各ルールを実際に試してみてもよりよいルールを選び、そのルールで実際にゲームを行うという活動を行います。

授業の前半では、教師の例示の後、選択肢を毎回変えて短いゲームをしてみて、ルールの善しあしやその感想を共有します。さらに、そのルールを設定することで「どんなよさが期待されるのか」ということも、必要に応じて説明します。

授業の後半では、感想の共有内容をもとにしてルールを決め、実際にゲームを行います。

図3は、この授業において児童が振り返りを行う学

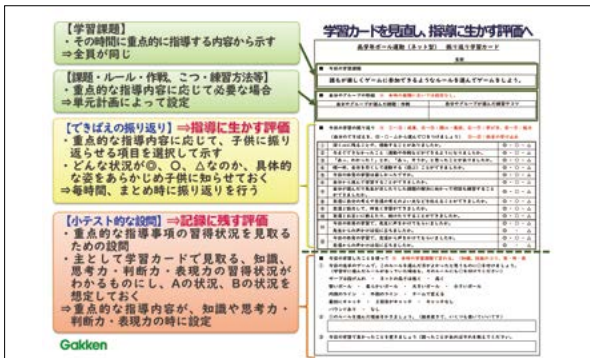


図3 学習カードの例 (セミナー投影資料より)

習カードの例です。長崎県指導力向上セミナー時に、講師の早稲田大学スポーツ科学学術院の吉永武史先生からご指導いただいたものです。上から順に概要を紹介します。

【学習課題】

本時の学習課題は、重点的に指導する内容から、あらかじめ児童に示しておきます。

【課題・ルール・作戦、こつ・練習方法等】

動きのポイント、選択した課題や解決の方法、ルールや作戦などを児童が記入します。重点的に指導する内容によって変わってきます。また、領域や学年の発達の段階によっても変わります。

【できばえの振り返り】

学習のできばえの振り返りの部分です。重点的に指導する内容によって教師が選択して示します。その際、児童は「できた：◎、まあまあ：○、がんばろう：△」で振り返ることとし、◎と○の姿については学習の中で教師が児童に示して振り返りを行わせません。ここでの児童の振り返りから、本時の指導を振り返り、指導に生かす評価として活用します。

【小テスト的な設問】

知識・技能の知識、思考力・判断力・表現力等の指導の際に設定する設問の部分です。主として学習カードで見取る、知識、思考力・判断力・表現力の習得状況がわかるものにし、評価としてAの状況、Bの状況を想定しておきます。本欄での評価は、次時以降の指導に生かす評価となるとともに、記録に残す評価にもなります。

図4の①の四角囲み部分は、ゲームのルールの選択肢です。また、重点的な指導内容等については、学習

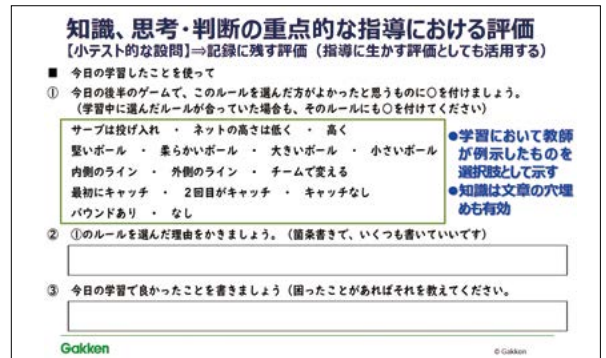


図4 学習カードの「小テスト的な設問」部分 (セミナー投影資料より)

中に発問し、児童の思考を深めさせます。そして、思考の深まりの状況を学習カードで確認します。これにより、指導に即した評価につながり、信頼性も向上します。やはり、指導あつての評価なのです。

4 アンケート機能を活用する

ここまで、見えない学力の評価を学習カードで行うことについて説明しました。しかし、毎時間の学習カードの準備やその点検は大変です。そこで、1人1台の端末を使って効果的に振り返る方法がないかと考え、端末にインストールされているアンケート機能を使ってみることにしました。

長崎市は、OSがGoogleのChrome OSで、Google Workspaceのアプリを使用する形で端末が整備されています。Wi-Fi環境も、体育館、運動場でも使えるようになっています。

図5は、学習カードをGoogleフォームでアンケート形式に作りかえたものです。



図5 Google フォームを使った振り返り (セミナー投影資料より)

入力はタッチパッドを使ったタッチ操作にしています。これにより回答の時間が劇的に短くなりました。また、音声入力も可能なので、書くことが苦手な児童や特別な支援が必要な児童には、音声入力の仕方を教え、どんどん音声入力を使ってよいことにしています。

5 振り返りをその場で確認する

教師は、PCやタブレットで児童の回答をリアルタイムで確認することができます。回答に時間がかかっている児童に声をかけ、回答が終わるまで待つこともできます。本時にできるようになったことの記述内容も、教師の集計画面で一覧にして見ることができます。この内容を、本時のまとめにも活用しています。

図6は、児童の振り返りの状況をグラフ化したものです。これも、リアルタイムで確認することができます。本時の重点的な指導内容について、◎が70%以上で△の児童はいないことから、本時の指導は概ね良好であったことがその場でわかります。

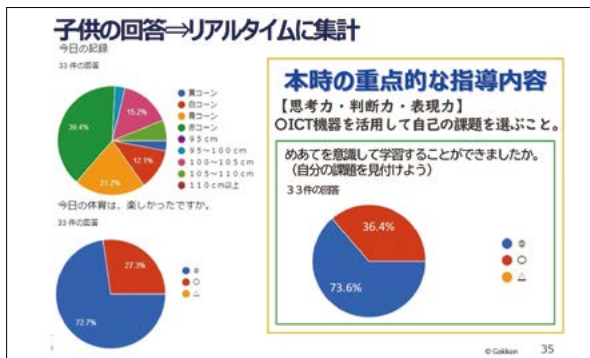


図6 振り返りの状況を集計し、グラフ化したもの
(セミナー投影資料より)

振り返りの状況を児童と一緒に確認します。そして、◎や○が多いときには「みんなが協力してよい学習になっているね」などと話し、△が多いときには「課題を選ぶことがまだできていないよ、という友達がいるけど、その人が課題を選ぶことができるようになるには、どんなアドバイスをしてあげるとよいか」といった発問をし、児童から課題を選ぶときのポイントを引き出し、再度、課題を選ぶときのポイントの例示を確認し、学習のまとめにつなげていきます。

もちろん、△が誰なのかを教師は把握できますので、そうした児童には授業後に言葉がけをしたり、次時の活動のはじめに意図的に一緒に活動をしたりして、課題を選ぶための指導を個別に行います。

Googleフォームの入力結果は、スプレッドシートに一覧で書き出すことができます。このシートを活用すると全員の回答状況が一目でわかるとともに、出席番号順でソートをかけて個人ごとの変容を見ることもできます。単元の総括的評価が行いやすくなり、評価の効率化にもつながっています。

6 ICT活用の効果と課題

ICTを評価に活用することで、教師の評価活動が行いやすくなりました。また、振り返りの結果をリアルタイムで示すことができるようになったことで、授業のまとめに深まりが見られました。また、指導に生かす評価に重点を置いて授業を見直すことで、授業改善につながりつつあります。

今後の課題としては、「何を」「いつ」「何のために」「どの程度」使用するのかということを確認にして、計画的にICTを活用しなければ、ICT活用に時間を取られて運動量が減ってしまい、結果として、児童が楽しくない授業になりかねません。

* * * *

ICT機器は、学習を深めさせ、教育的効果を高めるツールです。ICT機器の使用は、どんどん進めていかなければなりません。しかし、「ICTを使っている＝よい授業」ではありません。「何のためにICT機器を活用するのか、単元計画からしっかりと計画を立てておくこと」「機器を活用することが先行しすぎて、本時に学ばせたいことが不明確とならないようにすること」を忘れないようにしてほしいと思います。

体育(運動領域)の授業の充実、それは、運動の楽しさ、考える楽しさ、できる楽しさなどさまざまな楽しさがあります。そうした楽しさを味わうことで、体育の授業を楽しみにするような児童を増やし、そうした児童が学校外でも運動をする機会を増やしていくような好循環がつけるといいと思います。



小・中学校でもできる！ 新型コロナウイルス感染症に対処した水泳学習の実践

大阪府吹田市立豊津第一小学校校長 ● 有明 志郎 (大阪小中学校体育研究会顧問)

2019年に発生し、2020年から世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症によって、学校での活動が大きく制限される事態となりました。特に体育は、身体接触や声を出すことなどが活動そのものや学習過程に含まれるため、領域や種目によっては実施を見送ったり、活動量を大きく減らしたりするなど、大変な工夫や苦勞をされたことと思います。

なかでも水泳は、マスクを着用して行うわけにいかないため、実施を見送った事例を多く見聞きしました。しかしわたしの学校では、安全に配慮することはもちろん、指導法を工夫し、令和2（2020）年度、令和3（2021）年度とも水泳学習を実施することができました。今回は、この実践を紹介します。令和4（2022）年度から「水泳学習を再開したい」「水泳指導をよりしっかりと行いたい」と考えている学校、先生方のご参考になれば幸いです。



▲5つの鉄則の提示

▼T整列を普段から徹底



1 水泳指導を行う上での5つの鉄則

1. No Mask No Voice

マスクなしの活動では、「つば」を飛ばす行為はNG。1学期のクラス（学級）開き、発育測定などの行事、給食当番の整列などでもこれを徹底する。

2. T整列

前後左右の間隔は、児童が自分で意識できる両手幅を用いる。発育測定などで1列に並ぶときも「縦にTの間隔」で並ぶ。教室内で先生の机のところに並ぶときも目で「エアT」をして並ぶ。

3. One Way

向かい合う行為を避ける。一方通行を原則とする。念のため、顔を向き合わせないようにする。

4. Pythagoras System (ピタゴラ)

前に詰めない。床に示したポイントを一つずつ進む。子どもはどうしても前に詰めてくってしまう。そこを頑張って間隔を保つためのキーワード。(子どもたちがわかるように、NHKのテレビ番組『ピタゴラスイッチ』のアルゴリズム体操をイメージできるような言葉で)

5. Eye Contact (アイコンタクト)

パディ確認や意思、完了などを、目と指の合図で行う。親指サインやパウチ（濡れないように加工した）ボードを使用する。

2 プールでの学習の特徴

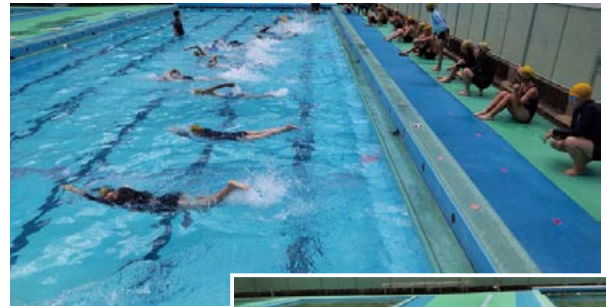
プールでの学習は、次のような考え方を基本に置くことで、進めやすくなります。

- 屋外は基本的に風が吹き、換気は十分。
- シャワーなどの水道水、プールの水は、「遊離残留塩素」が規定以上の濃度を維持していればOK。
学校環境衛生基準を満たすことで、大腸菌、アデノウイルスなども殺菌したり、不活化したりできる。新型コロナウイルスも同様に考えられている。
- 「ノーマスクでの行動様式」を学ぶことができる。
水着への着替えが終わったらマスクを外す。児童も緊張感をもって、無言での行動ができる。
- T整列の徹底
日頃の体育授業時や、教室移動、給食の配膳待ちなどでも間隔を開ける「T整列」を徹底。



3 授業の流れの例

| 順序 | 活動など |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 着替え 更衣室等で…間隔をあける。無言。 マスクを取ったら「ノーマスク行動」スタート。静かに廊下等に「T整列」。 |
| ② | プールに入っても「間隔を維持」「ポイントの上に位置する」「接触しない」「声は出さない」。 |
| ③ | 整列して「エアパディ」。手を接触させず、手で数字や「サムアップ」(OKサイン)。 |
| ④ | 各クラス2列とし、準備運動も無言で行う。接触なし。掛け声なし。 |
| ⑤ | シャワーもポイントを守る。ピタゴラスシステムで。 (1) 頭・顔・首・腕 (水は口に入れても大丈夫) (2) 胸・脇・背中 (3) 腰・尻・足 など |
| ⑥ | プール両サイドに各クラス2列に整列(低学年は小プールのサイドの広さによって調整)。 |
| ⑦ | 腰掛け (1) 手 (2) 足 (3) 頭 (4) 顔 背中 (5) 五でゴリラ 腹 |
| ⑧ | 横泳ぎ サイドから入り、1コース・3コース・5コース上で、課題運動。 水慣れ～横泳ぎ 毎回下記の中から選択し、2～3ターン。徐々に負荷を上げる。 (1) 沈む：一度、頭をつける～水中ジャンプ3回～底に手をつける など 逆のプールサイドに上がった後、パディで健康チェック(顔色・くちびるなど) (2) 浮く：くらげ～だるま浮き～浮き身 (3) 水中動作：前回り～後ろ回り～逆さ (4) けのび：けのび→けのび～ばた足→けのび～平泳ぎ (5) クロール→バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ～浮き身～平泳ぎ など |
| ⑨ | 縦泳ぎ サイドにポイント整列し、ピタゴラスシステムで左右のサーキットからコースへ。 (1) 連続けのび (2) けのび～平泳ぎ(ひとかき・ひとけり)～立つ (3) けのび～平泳ぎ(呼吸してひとかき・ひとけり)～伏し浮き(伸び)～立つ (4) 平泳ぎ⇒各コースも折り返し 25m～(距離は学校で判断する) (5) 歩きクロール～歩きクロール(息継ぎあり) (6) ばた足～クロール～息継ぎ (7) 面かぶりクロール (8) 息継ぎありクロール⇒距離を延ばす 25m～(距離は学校で判断する) |
| ⑩ | 整理運動、シャワー、着替えの行い方は、表内の①～⑤と同様。 |



▲プールの横、縦も間隔を十分とる。詰めない。クロスしない。

▶プールサイド、プールの中。一方通行・T整列・サインでOK!



4 おわりに

新型コロナウイルス感染症に対応しながらの水泳授業での評価は、次のように考えました。

- ・1学期は「安全に水泳学習ができる」ことが最大の目標。2学期にできれば距離を延ばす。
- ・知識・技能と主体的に学習に取り組む態度は、シャワー、横、縦の水泳練習ができれば○。「T整列」「ピタゴラ」等が学べてノーマスクがちゃんとできれば○。
- ・見学や雨天でできなかつたら、教室での授業で○。

今年度も大阪府下の複数の市でも水泳学習を実施しましたが、コロナウイルス感染はゼロ！ 大事なことは、例年とは違うという「意識」と、指導のポイントを守れば、水泳学習は可能です。

文部科学省の「2mの間隔をとる」はソーシャルディスタンスとして2年前に提唱されましたが、ここには、小学生はマスクを外すと声を出してしまうという認識が基本的にあります。しかし、実際には話したり叫んだりせず、緊張感を持って、お互いの命を守る学習ができました。横を向かなければ、縦横の間隔を1m以上にすれば整列も可能です。もちろん、心配な場合は2mの間隔をとることをおすすめします。

同様の状況は、数年間続くかもしれません。しかし、感染対策をしたうえでの水泳学習は可能です。

あせらず あわてず あきらめず！

全国子どもたちを「たいいく」で元気にしましょう！

GIGAスクール構想により児童生徒1人につき1台の端末が配備されたことを受けて、すぐに授業に取り入れられるおすすめのICT活用法をお聞きしました。



東京都練馬区立豊玉第二中学校 池川 健一 先生

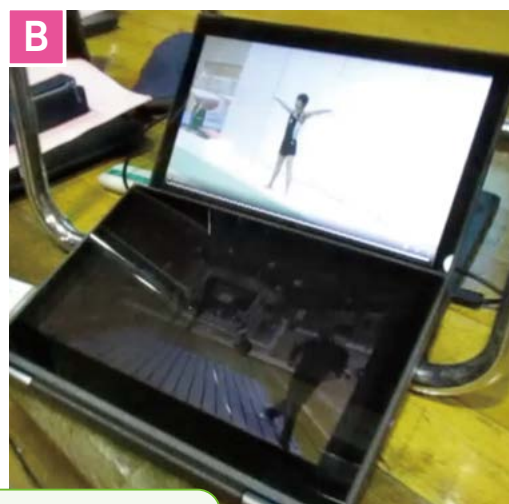
見本の動画を活用し、 気づきを促す学習

学年 2年

分野 体育

領域 器械運動

単元 マット運動



使用端末：Chromebook
使用ソフト：学研教育みらい『ニューワイド学習百科事典』

活用の手順

- ① 3~4人のグループをつくる。
- ② 生徒同士で、動画を撮影し合う。(写真A)
- ③ 見本の動画と見比べる。(写真B)
- ④ グループで、違いについて考える。
- ⑤ 課題を共有し、練習の仕方を工夫する。

Point 1 技能を見比べるためには、見本動画と同じ向きから撮影する必要がある。見本動画は常に体育館のスクリーンに流しておき、撮影の向きや技能の確認ができるようにしておく。撮影した技を客観的に確認する。

Point 2 またグループで見本動画と見比べ、違いを発見する。グループで確認することで一人では気づかない部分も気づけるようになる。その後の練習では、気づいた部分の練習を中心的に行い、再度撮影し確認をしていく。

Point 3 グループで互いの課題を共有することで、練習時の補助の付き方やアドバイスをし合える状況をつくる。互いに話し合った内容やアドバイスは振り返りシートに記入し、次回の授業にもつなげる。



with Sports 「スポーツと生きる人」から、スポーツの今とこれからを知る

新井 大基さん | 一般社団法人日本ボッチャ協会職員

年齢や性別、障害の有無を問わず誰もが楽しめるボッチャ。日本ボッチャ協会は、早くから普及活動に力を入れ、ファンの獲得や選手の育成に取り組んできた。その中心となって活動してきた普及部の新井大基さんに、競技との出会いやパラリンピック東京2020大会の舞台裏、ボッチャが持つ無限の可能性について聞いた。

取材・文／荒木 美晴

ボッチャは、ジャックボール（目標球）に自分のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う対戦型スポーツ。もともと重度脳性麻痺者や四肢機能障害者のために考案されたもので、パラリンピックの正式競技だ。競技特性上、障害の有無に関係なく誰もが楽しめるのも特徴で、世界の50を超える国と地域で親しまれている。

パラリンピック東京2020大会のテレビ放送では、『今はビツパビツパでしたね！』とオリンピックのスケートボードで話題になった名言を用いながら投球や戦略を細かくレポートし、視聴者を楽しませた。その解説を担当していたのが、新井さんだ。「初めて観る人も“ビツパビツパ”が成功の投球であることがわかるように、と思って使いました。また、僕が面白いと感じたまま話せば、みんなにより伝わるかなと思ひ、自分の感情や臨場感を乗せて解説していました」と語る。

新井さんがボッチャと出会ったのは大学時代。青春をささげた野球を引退し、卒業までの間に社会経験を積むべく始めた訪問介護のアルバイト先で、担当する利用者から競技アシスタント（自己投球ができない選手をサポートする人）に誘われたことがきっかけだ。その利用者は、当時日本代表だった奈良淳平選手。新井さんは「競技名を聞くのも初めて」だったが、とにかくルールを覚え、必死に練習に励んだ。すると、なんと世界選手権に出場し、その後のアジアパラ競技大会では団体の銀メダル獲得に貢献。まさかの急展開を振り返り「ありえない」と苦笑いしつつ、「数手先を読み投球する戦術は、ピッチャーの配球と似ていました。そのあたりがハマったのかな」と話す。

競技アシスタントは選手の指示に従って道具や投球の準備をする。試合中はコートに背を向け、振り返って試合を見てはいけぬ。選手とのコミュニケーションが鍵となることから、新井さんは「知ったフリはしない」と心に決め、日常生活を含め奈良選手ができることとできないことを一つずつ確認し、信頼関係を築いていったそうだ。

大学卒業後、日本ボッチャ協会に就職した新井さんは、選手の強化だけでなく、教育現場や企業での体験教室開催など、普及に尽力。じわじわと広がる認知度と人気を一過性で終わらせないために、ボールを正確に投げる楽しさだ

けでなく、「みんなで作戦を考えることにボッチャの魅力があるのだ」と、奥の深さを説き続けた。

新井さんが小学生に指導するとき、「最後までボッチャが障害者スポーツだとは言わない」そうだ。すると、児童は先入観なく一つのスポーツとして楽しんでくれる。「ボッチャという競技が面白くて僕はやってるんだよ、それで実はこういう障害がある選手がいてね、という順番で説明することになっています。そのほうが、子どもたちが抵抗なくパラスポーツや障害者に関われると思うからです。現場の先生方にも、障害者教育にこういうボッチャの使い方があることを知ってもらいたいですね」

現在国内では、キャラバン活動を行う「みんなでボッチャ1万人プロジェクト」、特別支援学校の児童生徒が競う「ボッチャ甲子園」、そしてトップ選手のみが出場できる「日本選手権」と、それぞれの立場でボッチャに取り組む事業がある。今後の展開を含めて、新井さんが考えるボッチャの未来像を聞くと、こんな答えが返ってきた。

「僕たちは、オリンピックの競技にボッチャを入れたいんです。健常者のルールを一部変更してパラリンピックで採用する競技は多いですが、その逆はないですよね？ボッチャは障害も性別も関係なく、70歳になっても80歳になっても日本代表になれる可能性がある。本当に社会を変えるなら、ボッチャが唯一、そこを目指せる競技だと思っています。みんなで壁を取っ払っていきたいですね」



▶ 講習会の様子

PROFILE ● あらい だいき

1991年生まれ、愛知県出身。小学2年から野球を始め、名城大学では強豪野球部でピッチャーとして活躍した。在学中に訪問介護のアルバイト先でボッチャの選手と出会い、競技アシスタントとしてデビュー。世界大会にも帯同するなど、約3年間にわたって携わった。その後は日本ボッチャ協会に就職し、現在はスタッフとして全国での普及活動や日本代表のサポートなどを行っている。

学研・教科の研究 体育・保健体育ジャーナル 第16号

『小学校体育ジャーナル』(通巻103号)
『中学校保健体育ジャーナル』(通巻129号)

令和4(2022)年5月発行

発行人…甲原洋 編集人…木村友一 発行所…(株)学研教育みらい デザイン…宮塚真由美 表紙オビイラスト…丸山誠司 印刷所…(株)広済堂ネクスト

●お問い合わせは、「小中教育事業部」へ 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8 学研ビル
内容については▶TEL. 03-6431-1568 (編集)

それ以外は▶TEL. 03-6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>

●「体育・保健体育ジャーナル」のPDF版および電子版は、WEBページから。

